

平成23年度

教育委員会事務の管理・執行状況
についての点検・評価報告書

平成24年4月

木曾岬町教育委員会

本報告書の評価等の記載について

本報告書では、平成23年度基本方針に基づいたそれぞれの施策ごとに、次のように評価、記載しました。

(1) 「目標及び目標とする姿」について

平成22年度の実績を考慮し、平成23年度の目標値やめざすべき姿を、数値及び文書で記載しました。

(2) 「成果・課題及び今後の方向性」について

評価値は、(1)の記載事項に対して、幼稚園、小中学校のアンケート結果（子ども、保護者、教職員に実施）や取組の状況等を総合的に勘案し、各項目の取組状況を内部評価し、4段階で表記しました。

1→取組の目標から考えて、著しく取組状況が悪いと考えられるもの

2→取組状況があまりよくないと考えられるもの

3→取組状況がおおよそ十分と考えられるもの

4→取組状況が十分と考えられるもの

評価値の後に、その評価結果となった理由について簡単に記載し、最後に、成果・課題及び次年度への方向性について記載しました。

もくじ及び評価一覧

1 教育委員会の活動及び教育委員会の管理・執行する事務について

目標とすべき姿	事業内容	評価				頁
		1	2	3	4	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育の機会均等 ・教育水準の維持向上 ・地域の実情に応じた教育の振興 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会会議の開催 ・学校や教育施設の訪問 ・委員の研修会等への参加 ・教育委員会の事務を管理・執行 			○		1

2 学校教育・幼児教育(共通)について

	施策	目標及び目標とする姿	評価				頁
			1	2	3	4	
信頼される学校・園をつくる	危機管理マニュアルの見直しによる危機管理意識の醸成と安全・安心の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○学校・園の防災計画に沿った危機管理を通じて、幼児児童生徒が安心して学校・園生活を送る。 ○常に、教職員が危機意識を持って行動する。 			○		6
	学校・園評価の実施と、評価結果から改善活動につなげる取組の推進	○学校の“強み”“弱み”を分析し、改善点を次年度の教育ビジョンにつなげる。			○		7
	先進校・園視察や外部講師を招聘しての教職員研修の実施による指導力向上	○教育の今日的な課題について研修を深める。			○		8
	情報の開かれた学校・園づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○明確でわかりやすい教育ビジョンを出す。 ○教育ビジョンに沿って運営する。 ○教育ビジョンを意識して通信を発信する。 			○		9
	幼稚園・小中学校の密接な連携による教育活動の推進	○幼稚園、小中学校が協議し、教育活動における連携を図ることで段差のない教育を進める。		○			10
	子どもが学びやすく、教職員が働きやすい環境整備の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○教育環境の維持・整備を図り、教育活動を充実する。 ○教職員の労働環境の整備を図り、教育活動を充実する。 			○		11

2-1 学校教育について

基礎学力を確実に身につけた子どもを育てる	子ども同士の対話が生まれる授業の展開	○人の話をよく聴き、自分の思いや考えを伝えることができるように授業を工夫する。			○		12
	ICT機器を効果的に活用し、視覚に訴えるわかりやすい授業の工夫	○日常的にICT機器を活用し、わかりやすい授業を進める。			○		13
	一人ひとりに応じたきめ細かな学習指導の工夫(効果的な少人数・習熟度学習の研究・実践)	○一人ひとりの学習に応じて、わからないところを丁寧に指導する。		○			14
	一人ひとりを見つめ、それぞれの教育ニーズに応じた特別支援教育の推進	○幼児期からの途切れのない支援を実現できるよう、関係機関と連携した取組を実施する。			○		15
	土曜チャレンジスクールによる補充学習の推進	○土曜チャレンジスクールに参加し、意欲的に学習することができる。			○		16
	小学校における教科担任制についての研究及び実施検討	○小学校における教科担任制の導入について試行案を計画する。			○		17

自他を尊重する豊かな心をはぐくむ	いじめの早期発見・対応に努め、居心地のよい集団づくりの推進	○一人ひとり、学級に友だちがいて居場所がある。	○	18
	自尊感情をはぐくむ教育活動のあり方の研究・実践 自分を見つめ、人権感覚を磨く授業の研究・実践	○一人ひとりが自分の大切さに気付き、生活しようとする意識を持つことができる。	○	19
	司書との連携を密にした読書活動の推進	○小中学校への定期的な司書の派遣により、学校図書館の環境整備を推進する。	○	20
	発達段階に応じた自然体験活動の推進	○トマトープ活用計画を作成する。 ※トマトープ・・・木曾町小学校で管理するピオトーブの名称	○	21
	外国人とのふれあいによる国際理解教育の推進	○日常的なALTの派遣により、英語を通じたコミュニケーション能力の育成を支援する。 ○インターナショナルデーに外国人講師を派遣することにより、多文化共生教育を推進する。	○	22
	郷土を知り、愛着を感じる授業の実施	○社会科副読本による地域学習計画を作成する。 ○地域の伝統芸能を子どもたちに継承することによって、地域への愛着を深める。	○	23
なかまと支え合いしなやかな心と体をはぐくむ	少人数での話し合い活動や発表会などを通じた自分の思いを伝える能力の育成	○少人数の活動を充実することで、意欲的に話し合おうとする。	○	24
	宿泊体験学習などの機会を通じたなかまづくりの推進	○新たな自分や他の人への発見を通じて、なかまの大切さに気付くことができる。	○	25
	職場体験学習を通じたキャリア教育の推進	○仕事や将来の生き方を深く見つめる機会を通じて、その後の生活に目標意識や計画性が芽生える。	○	26
	一人ひとりの思いに耳を傾ける教育相談体制の整備	○スクールカウンセラーを配置することにより、教育相談体制整備を図る。	○	27
	すべての子どもが積極的に運動に取り組める体制の研究・実践	○運動に親しみ、自らの健康を維持・向上していこうとする意識を高めていく。	○	28
	栄養教諭を中心とした食育推進計画の作成・研究	○栄養教諭と連携し、食育計画を作成する。	○	29
	保護者と連携した健康教育の推進	○健康な生活を維持・向上していこうとする意識を高めていく。	○	30
もこと保護者・地域を育か働かす 育てる子ど	「子育て 8つの指針」に基づいた取組の推進	○「子育て 8つの指針」について、保護者に周知する。	○	31
	保護者と連携を密にした家庭学習定着の取組の推進	○一人ひとり進んで家庭学習するよう意識を高める。	○	32

てかな協保 る働護 子者 しど・ もす地 をこ域 育やと	保護者との連携を密にした情報モラル教育の研究・実践	○学校と保護者で共通理解を図る機会を持つ。			○		33
	青少年育成町民会議と連携した子どもの健全育成の取組の推進	○会議における情報発信、日常の情報共有を円滑に進める。			○		34

2-2 幼児教育について

	施策	目標及び目標とする姿	評価				頁
			1	2	3	4	
自分を出し切って、意欲的に活動する子の育成	○遊びを中心とした保育の充実 ○保育者のかかわりと環境設定の工夫による保育の充実	○健康 生き生きと遊び、できることは自分でしようとする子の育成			○		35
		○人間関係 友だちの気持ちを思いやり、いっしょに考え支え合っていく子の育成			○		36
		○環境 身近な環境に積極的にかかわり、様々な物事に興味・関心をもとうとする子の育成			○		37
		○言葉 人の話をよく聞き、互いの思いを伝え合おうとする子の育成		○			38
		○表現 自分の思いを豊かに表現できる子の育成			○		39

3 社会教育について

生涯学習の推進	多様な住民参画による、生涯学習環境の構築を推進する。						
	施策	目標及び目標とする姿	評価				頁
			1	2	3	4	
	文化協会への活動支援と連携強化	○文化協会加盟団体による文化イベントを15回開催する。 ○文化祭をはじめとした文化イベントを開催し、町民が芸術や文化にふれ合う機会を設ける。				○	41
	読書環境の充実	○北部公民館図書室における特設コーナーを10回設置する。				○	42
	住民ニーズに即した公民館講座の提供	○住民ニーズに基づき、短期講座を開設する。		○			43

生涯スポーツの推進	子どもから高齢者までふれあうことができるスポーツ環境の構築を推進する。						
	施策	目標及び目標とする姿	評価				頁
			1	2	3	4	
	各種スポーツ団体への活動支援と連携強化	○体育協会・体育指導委員会へ役場職員を派遣し、連携を深める。 ○各団体、自主性の意識を高めながらも、対応しきれない部分等は教育委員会にて対応する。				○	44
	スポーツ関連施設の維持・充実と効果的な活用	○保守点検を実施し、指摘を受けた事項を速やかに修繕する。 ○利用団体への施設利用についての問題点や要望等を聞き取る。				○	45
	きそさきAZクラブへの活動支援と連携強化	○イベントの参加申込み等、窓口業務を支援する。 ○県を含め、問題点や課題等を協議・打合せする。			○		46

文化振興の推進	郷土の文化を大切にし、活用できる環境の構築を推進する。						
	施策	目標及び目標とする姿	評価				頁
			1	2	3	4	
	子どもたちへの伝統芸能の継承	○町内の保存会による子どもたちへの伝統芸能の指導を5回以上行う。			○		47
	町内文化資源の調査・保護の推進	○町内にある文化資源の調査を実施する。			○		48
文化資料館の有効活用	○学校の授業での活用を図る。 ○企画展を開催する。		○			49	

人権教育の推進	人権問題を一人ひとりの問題として受け止め、教育や啓発活動を通じ、人権尊重のまちづくりを推進する						
	施策	目標及び目標とする姿	評価				頁
			1	2	3	4	
	町人権同和教育研究協議会との連携による研修活動の展開	○町人権同和教育研究協議会理事会における研修を2回以上実施する。 ○研修会の充実を図る。				○	50
町人権同和教育研究協議会との連携による啓発活動の展開	○町人権同和教育研究協議会理事会における啓発活動を1回以上実施する。 ○啓発活動の充実を図る。			○		51	

青少年健全育成の推進	家庭・学校・地域社会が一体となり、子どもを見守り、支えられる地域社会づくりを推進する。						
	施策	目標及び目標とする姿	評価				頁
			1	2	3	4	
	青少年町民会議との連携	○青少年育成町民会議と協働することにより、未来を担う子どもたちを健やかに育むために、地域の住民が自らの知識や経験を学校の支援に活かすことにより地域の教育力を高める基盤作りを推進する。				○	52
	学習支援ボランティアによる子どもの学習や体験活動のサポート体制の構築	○学習支援ボランティアの現状把握と学校の意向調査を実施する。			○		53
	若者が参画するまちづくりの推進	○「新成人と語る集い」を開催する。			○		54
ホリデー教室の推進	○ホリデー教室の継続実施と教育内容を充実する。				○	55	

4 教職員及び幼児児童生徒の保健・安全について

事業内容	評価				頁
	1	2	3	4	
○適切に教職員や幼児児童生徒の健康診断を行う。 ○適切な時期に、就学児健康診断を行う。 ○安全衛生管理規定に基づき、教職員の時間外勤務の実態を把握し、適切な指導を行う。			○		56

5 学校その他の教育機関の施設整備・環境衛生について

事業内容	評価				頁
	1	2	3	4	
○学校の環境衛生検査について、適切に計画を立て実施する。 ○学校その他教育機関の修繕等について、その都度迅速に対応する。			○		57

6 学校給食について

事業内容	評価				頁
	1	2	3	4	
○安全な学校給食を提供する。 ○給食費未納者を削減する。 ○入札制度の活用により、安全な食材を低価格で提供する。 ○給食運営委員会を開催し、給食のあり方の改善を図る。			○		58

1 教育委員会の活動及び教育委員会の管理・執行する事務について

事業の概要	事業の対象	町民	
	目標とすべき姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の機会均等 ・ 教育水準の維持向上 ・ 地域の実情に応じた教育の振興 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会会議の開催 ・ 学校や教育施設の訪問 ・ 委員の研修会等への参加 	
	事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会の事務を管理・執行 	
今年度の重点施策の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員の意見が十分反映された教育委員会を行う。また、教育委員会会議は、年間を通じてある程度定期的に開催するようにし、議論の深まりを図るため、資料は事前配付を原則とする。 ・ 教育委員の研修には、積極的に参加する。 ・ 教育基本方針等は、昨年度の課題を克服する視点を明らかにしながら策定する。その際、教育振興基本計画(トマッピー教育プラン)の年次計画の進行状況も見直し、年次計画の修正等調整を図る。 ・ 条例・要綱・規則等の見直しは、遺漏のないように適宜見直しを図る。 ・ 教育委員は、可能な限り学校や幼稚園等を訪問し、現場の状況について十分把握するように努める。 ・ ICT機器の整備をすすめ、意欲的な学習活動が展開されるよう学校へ指導・助言をする。 ・ 保護者・地域と協働した子育てを推進する。 ・ 地産地消をすすめるうえで、「地物一番給食の日」木曾岬町産の旬のもの、季節野菜を積極的に提供する。 ・ AZクラブの円滑な運営のため、活動を支援する。 ・ 児童生徒の通学の見守りについて、情報伝達の遺漏がないように円滑な連携を図る。 ・ 放課後の子どもの居場所づくりを進める。 ・ 教育委員会が所管する施設については、計画的に、安全・安心の確保を図る。 ・ 防災教育の見直しを図り、児童生徒の命を守る取組を支援する。 ・ 学習指導要領の完全実施に向けて、遺漏のないように支援する。 		
事業の実績		22年度	23年度
	教育委員会会議の開催回数	8回	5回
	教育委員の研修会への平均参加人数 (のべ参加人数÷研修会の回数)	4人 (三重の教育談義へ4人参加)	5人 (三重の教育談義へ5人参加)
	学校・教育施設へののべ訪問回数	90回	95回
	町の教育方針の策定状況	学校教育基本方針・幼稚園教育基本方針・社会教育基本方針を策定 町教育振興基本計画「トマッピー教育プラン」を策定	学校教育基本方針・幼児教育基本方針・社会教育基本方針を策定
	人事の一般方針の策定状況	教職員人事異動基本方針を策定	教職員人事異動基本方針を策定
基本方針に基づいた、教育関係職員の研修に関する計画の策定状況	町研修計画を策定	町研修計画を策定	

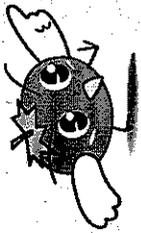
課長及び幼稚園その他教育機関の長の任免状況	該当者なし	該当者なし
県費負担教職員の任免その他進退についての内申状況	県教育委員会へ内申	県教育委員会へ内申
事業の実績 委員会規則、規定の制定又は改廃の状況	条例の改正1、規則の改正6、要綱の改正3、要綱の廃止2	規則の制定1、規則の一部改正1、要綱一部改正1
学校教育・社会教育に関する各種委員等の任免・委嘱の状況	社会教育委員、体育指導委員、就学支援委員、学校評議員・学校づくり連携会議委員を委嘱	社会教育委員、就学支援委員、学校評議員・学校づくり連携会議委員を委嘱
教科用図書の採択状況	小学校教科用図書を採択	中学校教科用図書を採択
事務の管理・執行状況について点検・評価の状況	平成23年4月に点検・評価を行い公表	平成24年5月に点検・評価を行い公表

※内容の詳細については、【資料編 P1】に記載

内部評価	<p>3 平成22年度末に策定した教育振興基本計画(トマッピ教育プラン)に基づき、今年度の重点課題を設定し課題解決を図るよう、施策を実施し、改善を図ることができた。しかし、まだまだ、十分とは言えず、今以上に教育委員会で協議を重ねていく必要があることから評価は3とした。</p>
成果と次年度の課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会会議は、年間を通じて適時開催することができた。会議の際には、資料を事前配付し、当日の議論が円滑に進むよう配慮したが、十分な協議の時間が持てない場合もあった。 ・ 平成23年3月に策定した木曾岬町教育振興基本計画(トマッピ教育プラン)に基づき、学校教育基本方針及び幼児教育基本方針、社会教育基本方針を策定し、幼小中管理職会議及び議会全員協議会・社会教育委員会で説明をし、取組をすすめてきた。多くの項目については推進できているが、一部には十分でないところがある。 ・ 学力の向上については、少人数教育の推進、ICT機器の利活用等を通じて徐々に成果は見られるが、さらなる向上を図るために、学力を客観的に把握し、指導方法の工夫・改善に取り組んでいく必要がある。 ・ 研修機会としては「三重の教育談義」だけであったが、教育委員は、積極的に研修に参加し、研鑽を深めることができた。しかしながら、町教育行政のさらなる推進のためには、隔年毎に、さらに深めた研修の機会を確保する必要がある。 ・ 条例や規則の改廃等について、適宜見直しを図ることができた。 ・ 適宜学校、幼稚園、教育施設を訪問し、その状況を見ながら教育施策について考えることができた。今後も“現場”の状況を的確に捉え議論することが必要である。 ・ 海外視察に代わる事業として、中学1年生全員を対象とした宿泊体験学習を試行的に実施したところ、中学校からは「自主性・協調性」を育む点でよい成果があったとの報告もあり、次年度以降も継続実施の方向で検討している。 	

- ・ 町の伝統文化を保存・継承する観点から、「木曾岬音頭・小唄保存会」が、幼稚園児や保育園児、小学2年生に指導し、それを行事等で披露する取組は2年目も継続することができた。「櫻華太鼓保存会」の活動では、中学校の文化祭等でも太鼓教室を開催し、次の世代への継承の機会を広げることができた。しかし、まだ、取組は十分とは言えず、今後も検討が必要である。
- ・ 小中学校、幼稚園へICT機器を導入し、より視覚に訴えたわかりやすい授業ができるように機器を整備している。活用頻度の状況については、小学校・中学校とも高くなってきている。今年度は、導入しているソフトの活用について交流の機会を持ち、さらには、県教育委員会の指導のもと、効果的なICT機器の活用についての研修を行った。今後も、機器の操作研修はもちろんのこと、教職員が日常的なICT機器の活用をすすめることで、子どもの学びをより意欲的な方向に導く授業づくりにつながるよう意識の向上を図る。
- ・ 保護者や地域と協働した取組として、「子育て 8つの指針」にそった取組をすすめた。今年度は、安心感・信頼感、生活リズム、家庭学習について、大学教授を招聘して講演会を実施した。次年度以降も、「子育て 8つの指針」の中からテーマを選択して、協働した子育てについて啓発を充実していく。
- ・ 平成23年度より、小学校で米飯給食を導入した。順調にすすめられてる。中学校への導入については、保護者や学校からの要望があれば、給食運営委員会で協議していく。
- ・ 地産地消については、「地物一番給食の日」として、木曾岬町産の旬のもの、季節野菜をできるだけ使用した給食を提供している。
- ・ 総合型地域スポーツクラブ「AZクラブ」がスタートした。活動での支援として、平日の参加申込等手続きについては、教育委員会で協力している。資金面では、会場使用料の減免をおこなっている。今後の「AZクラブ」への支援や連携のあり方について、さらに検討を重ねていく。
- ・ 体育協会については、事務作業の後方支援を継続しつつ、次代を担うニューリーダーの育成と新規分野への事業展開をすすめる組織育成に努めていく。
- ・ 平成23年2月に発足したボラ倶楽部については、地域コミュニティづくりのコーディネーター的存在として捉え、イベントの企画・運営を通じた町づくりの活動を進めるうえで、組織強化や事務的な援助など側面的な支援に努めている。
- ・ 児童生徒の下校時の見守りについて、今年度から中学生の見守りは廃止した。その一方で、青少年育成町民会議により見守りボランティアの登録者を募り、その方々の見守りに変更して実施し、下校時刻の変更や不審者情報の連絡などが十分に伝わらない場合があったので、今後の連携について検討を加えていく。
- ・ 小学校全児童を対象に「ホリデー教室」を実施している。地域から新たな指導者を発掘するなど、事業の充実にも努めている。
- ・ 施設の維持管理については、安全・安心の確保のため、計画にそって定期的な点検等にあたる必要がある。本年度、主な整備事業については、小学校の運動場改修、空調設備改修を実施し施設環境整備に努めた。なお、次期総合計画の策定に向けては、施設を総合的に維持していくような維持管理計画を策定していく必要がある。
- ・ 東日本大震災を教訓に、幼小中において、防災計画等の見直しを図り、その計画にそって避難訓練等を実施してきた。訓練をする中で見えてきた課題について、今後、町防災部局と連携を図りながら、より確かな防災計画・防災教育の推進を図る必要がある。
- ・ 平成24年度から中学校において新しい学習指導要領が実施されるにあたり、より学力の定着を図るため、総授業時数の確保及び新しく実施される武道の指導における安全管理等について指導・助言をしていく。

平成23年度 木曾岬町学校教育基本方針



目指す子どもの姿

◎自ら学び、考える力を身につけた子ども
◎基礎的・基本的な学力を確実に身につけた子ども
◎心豊かな人間性をもち、他者と協働できる子ども
◎粘り強く生き抜く精神力、体力を身につけた子ども



基礎学力を確実に身につけた子どもを育てる

自他を尊重する豊かな心をはぐくむ

なかまと支え合いしなやかな心と体をはぐくむ

保護者・地域と協働してすこやかな子どもを育てる

- ◎子ども同士の対話が生まれる授業の展開
- ◎ICT機器を効果的に活用し、視覚に訴えるわかりやすい授業の工夫
- ◎一人ひとりに応じたきめ細かな学習指導の工夫(効果的な少人数・習熟度学習の研究・実践)
- ◎一人ひとりをみつまめ、それぞれの教育ニーズに応じた特別支援教育の推進
- ◎土曜チャレンジスクールによる補充学習の推進
- ◎小学校における教科担任制についての研究及び実施検討

- ◎いじめの早期発見・対応に努める居心地のよい集団づくりの推進
- ◎自尊感情をはぐくむ教育活動のあり方の研究・実践
- ◎自分をみつめ、自信を磨く授業の研究・実践
- ◎同輩との連携を密にした読書活動の推進
- ◎発達段階に応じた自然体験活動の推進
- ◎外国人とのふれあいによる国際理解教育の推進
- ◎郷土を知り、愛着を感じる授業の実施

- ◎少人数での話し合い活動や発表会などを通じた自分の思いを伝える能力の育成
- ◎宿泊体験学習などの機会を通じたながまがつくりの推進
- ◎職場体験学習を通じたキャリア教育の推進
- ◎一人ひとりの思いに耳を傾ける教育相談体制の整備
- ◎すべての子どもが積極的・運動に取り組める体制の研究・実践
- ◎栄養教諭を中心とした食育推進計画の作成・研究
- ◎保護者と連携した健康教育の推進

- ◎「子育て」8つの指針に基づいた取組の推進
- ◎保護者との連携を密にした家庭学習定着の取組の推進
- ◎保護者との連携を密にした情報モラル教育の研究・実践
- ◎青少年育成町民会議と連携した子どもの健全育成の取組の推進



信頼される学校・園を

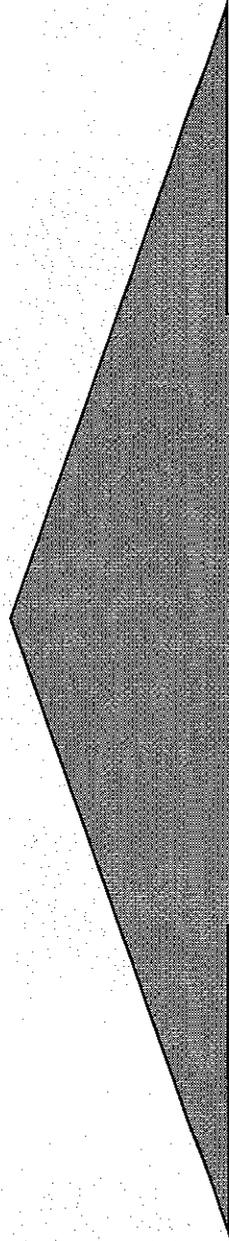
- ◎危機管理・安全対策の徹底による危機対応力の向上
- ◎学校職員の業務改善・評価制度の導入による働きやすさの向上
- ◎先進校視察や外部講師を招請しての教職員研修の実施
- ◎進歩的・革新的な教育実践の推進
- ◎「信頼される学校・園」づくりの推進
- ◎幼保連携型認定こども園の推進
- ◎児童館・公民館との連携による地域連携の推進

平成23年度 木曾岬町幼児教育基本方針



めざす子どもの姿

自分を出しきって、意欲的に活動する子の育成



遊びを中心とした保育の充実
 保育者のかかわりと環境設定の工夫による保育の充実

健康

生き生きと遊び、できることは自分でしようとする子の育成

人間関係

友だちの気持ちを思いやり、いっしょに考えあえ合っていく子の育成

環境

身近な環境に積極的ににかかわり、様々な物事に興味・関心をもとうとする子の育成

言葉

人の話をよく聞き、互いの思いを伝え合おうとする子の育成

表現

自分の思いを豊かに表現できる子の育成

信頼される園をつくる

◎各施設で子どもの見守り、保護者・地域の関係と安全・安心の確保
 ◎園児の発達・健康を第一とし、安心して活動できる環境の確保
 ◎お礼状・お便り・お電話など、保護者の声かけを大切に受けとる

方針

信頼される学校・園をつくる

施策 ○危機管理マニュアルの見直しによる危機管理意識の醸成と安全・安心の確保

目標及び目標とする姿

- 学校・園の防災計画に沿った危機管理を通じて、幼児児童生徒が安心して学校・園生活を送る。
- 常に、教職員が危機管理意識を持って行動できる。

取組の概要

- 東日本大震災を受けて、学校・園における危機管理マニュアルの見直しを図る。
- 計画に沿った避難訓練、安全点検、安全指導を進める。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

- 東日本大震災を受けて、地震・津波の発生にともなう学校・園の避難方法、避難訓練の在り方について検討を加えた。
- 地震・津波による避難訓練として、高台への避難等を実施した。
- 公共施設については、避難所となっており、幼児児童生徒の避難だけではなく、町民の方の避難への対応等、今後、町の防災対策との連携を検討していく必要がある。

備 考

- 中部幼稚園
避難訓練…5月20日、6月21日、7月20日、9月21日、10月21日、11月21日、12月21日、1月23日、2月21日、3月15日、
- 南部幼稚園
避難訓練…5月20日、6月17日、7月22日、8月5日、9月16日、10月21日、11月18日、12月16日、1月20日、2月17日、3月6日
- 小学校
避難訓練…6月11日、10月26日、11月22日
不審者対応訓練…10月26日、
防災訓練…7月13日、9月26日、11月4日、2月14日、
- 中学校
地震・津波避難訓練…11月15日、
防災訓練…5月20日、2月10日、

方針

信頼される学校・園をつくる

施策 ○学校評価の実施と、評価結果から改善活動につなげる取組の推進

目標及び目標とする姿

○学校の“強み”“弱み”を分析し、改善点を次年度の教育ビジョンにつなげる。

取組の概要

○各学校・園において、学校づくり連携会議を開催した。
○各学校・園における「学校自己評価」「学校関係者評価」から“強み”“弱み”について整理した内容を、管理職会議において交流し、それぞれの評価について情報交換を行った。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

○教育活動の改善を図っていると考えている保護者の割合から、各学校・園における平成23年度の取組については、概ね理解・評価を得られたと考える。
○学校・園において、課題として指摘を受けたことについては、次年度の課題として、教育ビジョンに反映していくこととする。

備 考

○学校づくり連携会議の開催について
第1回…町役場で、幼小中全体で、5月18日に開催した。
町教育委員会の方針を説明し、その後、各学校・園に分かれて進行した。
第2回…各学校・園において開催した。
中部幼稚園…12月19日
南部幼稚園…12月12日
小学校…10月24日
中学校…10月25日
第3回…各学校・園において開催した。
中部幼稚園…1月16日
南部幼稚園…1月27日
小学校…1月27日
中学校…1月27日
○アンケート結果…【資料編P10】参照。
◇学校は常に教育活動の改善を図っていると考えている保護者の割合
◇教職員育成支援制度により、新たな視点に気付くことができたと思える教職員の割合
※平成23年度の幼稚園・小中学校の“強み”“弱み”については、【資料編P2～】参照。
また、学校の「自己評価」「関係者評価」については学校・園のホームページを参照。

方針

信頼される学校・園をつくる

施策 ○先進校・園視察や外部講師を招聘しての教職員研修の実施による指導力向上

目標及び目標とする姿

○教育の今日的な課題について研修を深める。

取組の概要

- 視察先や講師研修会の情報について、管理職会議等を通じて、提供してきた。
- 幼稚園研修に外部講師を招聘し研修を深めた。
- 中学校で、個別に指導力向上研修の機会を持った。
- 小学校において、県教育委員会国語力向上事業を受け、大学教授を招聘して研修を行った。
- 各園から近隣の幼稚園に教諭1名を派遣し先進的な取組を学び、全体に還流報告を行った。
- 小中学校の教職員を派遣し、先進的な取組事例を学び、文書にて還流報告を受けた。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

- 幼稚園においては、専門的な指導者を招聘して2年目となり、「遊び」を中心とした保育の充実、保育者の関わり方について、全体での共通理解が図られるようになってきた。先進園の視察では、「遊び」の充実という点に加えて、幼稚園・保育園の一体化をすすめる他町の実践について学んだ。
- 小学校では、県教委の事業を活用し、コミュニケーション力の向上について大学教授から専門的な助言を受けた。中学校では、個別に授業を行い指導を受ける機会を持った。
- 教員の研修に対するアンケートにおいて、中学校で「十分深めることはできなかった」とする意見があり、研修内容、機会について、次年度は検討を加えていく必要がある。

備考

- 中部幼稚園
園内研修(子どもが自ら遊ぶ環境設定と教師のかかわりについて)
6月3日、11月1日、1月20日
先進園視察・・・10月25日、26日 東員町立笹尾東幼稚園・保育園
幼保一体化について
- 南部幼稚園
園内研修(環境設定と教師のかかわりについて)
5月20日、9月6日、10月18日、11月16日、1月13日
先進園視察・・・10月31日、11月1日 四日市市立羽津幼稚園
遊びを中心とした保育の充実について
- 小学校・中学校合同研修会・・・6月7日、8月24日、12月26日
ICT活用推進部会
学びの一体化
- 小中学校・・・専門的指導者、研修視察について【資料編 P17～】参照。
- アンケート結果・・・【資料編P10】参照
◇教育の今日的な課題について、研修を深めることができたとする教員の割合

方針

信頼される学校をつくる

施策 ○情報の開かれた学校づくりの推進

目標及び目標とする姿

- 明確でわかりやすい教育ビジョンを出す。
- 教育ビジョンに沿って運営する。
- 教育ビジョンを意識して通信を発信する。

取組の概要

- 情報発信の効果的な方法について、管理職会議で協議した。
- 学校・園ビジョンの説明を視覚的に発信するようにした。
- 学校・園だよりを発行し、学校・園の様子を伝えた。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

- 学校・園ビジョンを機会あるごとに発信する意識を持つことができた。
- ホームページの閲覧回数目標を変更するほど、アクセスがあった。
- 学校・園だよりを通じて、学校・園の様子について理解が深まりつつある。
- 常に、最新の情報への更新や、組織全体での取組をし、より多くの方に情報提供できるよう、さらに工夫・改善を図る必要がある。

備考

○PTA総会で教育ビジョンを発信。(小中学校)

小学校・・・4月28日

中学校・・・4月22日

○学校通信等の発行数

小学校・・・計44号

中学校・・・計34号

中部幼稚園・・・計32号

南部幼稚園・・・計12号

○アンケート結果【資料編P9】参照。

◇学校はわかりやすく教育ビジョンを出していると考えている保護者の割合

◇学校の教育活動は、教育ビジョンに沿って運営されていると考えている保護者の割合

◇教育ビジョンを意識して通信を発信したと考えている教職員の割合

方針

信頼される学校をつくる

施策 ○幼稚園・小中学校の密接な連携による教育活動の推進

目標及び目標とする姿

○幼稚園、小中学校が協議し、教育活動における連携を図ることで段差のない教育を進める。

取組の概要

○幼稚園、小中学校が連携して取り組んでいることについて管理職会議で情報交換した。
○就学支援委員会において、幼児児童生徒の生活等について情報交換を行い、途切れのない指導となるよう体制づくりを進めた。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

2

○小学校で実施される文化的な行事について、幼稚園も参加している。
○中学校が保育実習を通じて、幼児との関わりを持つ機会がある。
○小中学校では、6年生に中学校の生徒会からのガイダンスを行っている。
○小学校の生活科など、教育過程における活動において幼児と児童が関わる機会などはない。今後は、より密接な連携のもとで教育活動を充実させていける内容や機会について協議し実施していくことを検討していく必要がある。

備考

平成23年度に実施した教育活動例

○小学校で開催されたクラシックコンサートに5歳児も参加して、音楽鑑賞をおこなった。

○中学校2年生が保育実習を行っている。

○中学校生徒会役員による小学6年生向けガイダンスを行っている。

方針

信頼される学校をつくる

施策 ○子どもが学びやすく、教職員が働きやすい環境整備の推進

目標及び目標とする姿

- 教育環境の維持・整備を図り、教育活動を充実する。
- 教職員の労働環境の整備を図り、教育活動を充実する。

取組の概要

- 小学校にエアコンを設置した。
- 教育環境について、不具合が見られた点については補修・改善を進めた。
- ミストの設置試行を行い、夏場の中学生のクラブ活動等における暑さ対策を検討した。
- 人的環境である教職員の労働状況(健康診断・時間外労働等)を把握し、教職員の健康管理を進めた。
- 労働効率を上げるため、事務整理に関するデジタル化を、ICT活用支援員の協力で進めた。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

- 夏の暑さ対策については、今後も、状況に応じて対策をすすめていく必要がある。
- 小学校運動場、スプリンクラーの整備、プール管理施設の保守、鳥糞対策等必要に応じて、修繕を進めた。
- 教職員の労働状況、時間外労働を減らすため、月曜日は部活動のない日としている。また、教職員については、管理職が面談を行うなど管理・ケアに努めている。

備考

- 教育環境の整備について
 - ◇小学校の教室にエアコンの設置を行った。
 - ◇小学校の運動場の整備・改修した。
 - ◇プールポンプの破損を修繕した。
 - ◇中学校でミストの設置を試行し、夏場のクラブ活動における熱中症対策を検討した。
- 教職員の時間外労働について【資料編P28】参照。
月80時間を超える時間外勤務者については、管理職が面談を行った。
- ICT活用支援員による事務整理のデジタル化について
健康診断票、指導要録等の電子化を行った。

方針

基礎学力を確実に身につけた子どもを育てる。

施策 ○子ども同士の対話が生まれる授業の展開

目標及び目標とする姿

○人の話をよく聴き、自分の思いや考えを伝えることができるように授業を工夫する。

取組の概要

○子どもどうしの意欲的な話し合い活動が生まれる授業や活動について研究授業等研修を進めた。
○対話が必要となる場面を取り入れた効果的な授業実践の情報について管理職会議を通じて提供した。
○指導主事訪問を通じて授業展開の中で子ども同士の対話の設定が適切であったかについて指導した。
○ホワイトボードを活用した小グループ活動を取り入れた授業のあり方についての研修を支援した。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

○ホワイトボードを活用した小グループ活動による話し合い活動を必要に応じて取り入れることができるようになってきた。
○電子黒板、実物投影機を使い、また、小グループによる話し合い活動を取り入れた授業づくりを進めている。
○自分の意見を書いたり、まとめたりする活動を通じて、自分の意見を持つ児童生徒が増えてきている。

備 考

○アンケート結果…【資料編P11】参照。
◇先生や友だちの話をしっかりきくことができると思う子どもの割合
◇自分の意見や考えを公表していると思う子どもの割合
◇子どもは、人の話を聞き、自分の考えや思いを伝えられる力(コミュニケーション力)が備わってきていると思う保護者の割合

方針

基礎学力を確実に身につけた子どもを育てる。

施策 ○ICT機器を効果的に活用し、視覚に訴えるわかりやすい授業の工夫

目標及び目標とする姿

○日常的にICT機器を活用し、わかりやすい授業をすすめている。

取組の概要

○ICT機器の授業における効果的な活用について、教職員研修を進めた。
○ICT機器の効果的な活用について、教職員間での情報交換を行うよう指導した。
○ICT機器を活用した授業を公開して、保護者にもその効果を伝えるようにした。
○ICT機器の活用頻度を集計した。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

○小学校については、授業において、電子黒板、実物投影機を活用した授業は定着してきている。
○中学校については、教科により異なるが、ICT機器の活用について検討され、どの教科でも活用が進んでいる。
○ICT活用支援員の支援により、ICT機器の活用方法が多様化してきている。

備考

○ICT機器の効果的な活用について

◇研修会を実施して、レポートで実践交流を行った。

◇ICT活用支援アドバイザーを囲んで研修会を行った。

これまでの支援内容から、参加者全体に伝えておきたい留意点等についての講話。

◇ICT機器を活用した授業研究会を実施した。

6月22日 小学校 5年生 算数科 図形分野

10月26日 中学校 2年生 数学科 図形分野（少人数授業において）

助言者：県教育委員会研修指導室 大立目副室長

○ICT機器の活用状況について…【資料編P16】参照。

◇ICT活用支援員（11月以降～）

小中学校におけるICT機器利活用の促進を図るために講師派遣（2回／月ずつ）

授業で効果的な活用をすすめる際の助言を受けるようにしてきた。

方針

基礎学力を確実に身につけた子どもを育てる。

施策 ○一人ひとりに応じたきめ細かな学習指導の工夫(効果的な少人数・習熟度学習の研究・実践)

目標及び目標とする姿

○一人ひとりの学習に応じて、わからないところを丁寧に指導している。

取組の概要

- 小学校 1～6年 算数における少人数指導, 中学校1～3年数学における少人数指導を実施してきた。
- 小学6年生で, 習熟度別少人数による算数の授業を1単元(図形)について実施してきた。
- 少人数学習・習熟度別学習について、効果や指導事例を管理職会議で提案してきた。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

2

- 少人数指導を進めており、児童生徒の多くは、わからないことについてきめ細かな指導を受けていると捉えている。
- その一方で、「きめ細かな指導を受けている」と捉えている保護者の割合は少ない。こうした点について、今後の課題である。

備 考

○少人数授業をすすめるための教職員の加配状況。【資料編P19】参照。
主に、算数・数学において少人数授業を推進。

小学校・・・(県)少人数加配教員1名。
町)少人数加配教員2名。
特別支援加配教員1名。
教育ボランティア1名。

中学校・・・(県)少人数加配教員1名。
町)教育ボランティア3名。

○アンケート結果・・・【資料編P12】参照。

◇「授業がよくわかる」と答えた子どもの割合

◇「学校は個々の子どもに応じたきめ細かな指導をしている」と考える保護者の割合

◇「勉強のわからないところや質問に丁寧に答える先生がいる」と答える子どもの割合

方針

基礎学力を確実に身につけた子どもを育てる。

施策 ○一人ひとりをみつまめ、それぞれの教育ニーズに応じた特別支援教育の推進

目標及び目標とする姿

○幼児期からの途切れのない支援を実現できるよう、関係機関と連携した取組を実施する。

取組の概要

- 就学支援委員会を年間3回開催し、該当児童・園児の就学先の判定を行った。
- 特別支援教育コーディネーター連絡会議を年間2回開催し、個別支援ファイルの運用や状況について情報交換を行った。また、第2回連絡会議においては、臨床心理士等専門家を招聘し、臨床的なアドバイスを受ける機会とした。
- 三重県教育委員会の「特別支援教育体制整備事業」を受託し、専門家による定期的な巡回相談の機会を確保した。
- 就学前における特別支援教育については、福祉健康課が所管するあすなろ学園のチェックリストの活用事業から要請を受け、協力してきた。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

- 関係機関と連携した取組については、定例化されたものを含め体制整備が築かれつつある。
- 個別支援ファイルについては、教職員への周知は進んでいるものの、保護者への啓発に課題も残っていることから、評価を3とした。

備考

方針

基礎学力を確実に身につけた子どもを育てる。

施策 ○土曜チャレンジスクールによる補充学習の推進

目標及び目標とする姿

○土曜チャレンジスクールに参加し、意欲的に学習することができる。

取組の概要

○土曜チャレンジスクールを年間25回開催した。
 ○通常の土曜日開催の教室に加え、夏休みの平日に「夏休み集中教室」を開催した。
 ○三重大学と連携し、問題集の選定にあたってアドバイスを受け、習熟度別の問題集を用意した。また、学生の派遣を依頼した。
 ○地域指導者による運営委員会を実施した。運営委員会では、テキストの作成・保護者採点ボランティアの輪番表の作成等の業務を行った。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

○土曜チャレンジスクールを年間25回開催した。
 ○アンケートの結果、89%の児童が「分かりやすい・どちらかというと分かりやすい」と答えた。
 ○上記の成果はあるものの、三重大学や小学校との連携という意味では、まだ課題が残るため、評価を3とした。

備考

土曜チャレンジスクールアンケート 集計

		算数の学習は好きですか				土曜チャレンジスクールは楽しいですか				土曜チャレンジスクールの準備は分かりやすいですか				学習している問題は難しいですか			
		①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④
4年生	基礎	3				3				1	2				3		
	発展	3	5			1	7			2	5	1			2	5	1
5年生	基礎		2		1		3			1	2			1	1		1
	発展		2			1	1			1	1					2	
6年生	基礎		1	2			1	2			2				1	2	
	発展	1							1			1			1		
	合計	7	10	2	1	5	12	2	1	5	12	2	0	1	8	9	2

- ① そう思う
- ② ややそう思う
- ③ あまりそう思わない
- ④ 思わない

○全体的な傾向として、算数に対する意欲は高い。
 ○基礎コースはおおよそ学習内容が適切だと言えるが、発展コースの児童にとっては難易度が低いと感じられている。
 ○きめ細やかな指導により(4~5人に対して1人の指導者)、チャレンジでの学習について「分かりやすい」と答えた児童の率が高い。

方針

基礎学力を確実に身につけた子どもを育てる。

施策 ○小学校における教科担任制についての研究及び実施検討

目標及び目標とする姿

○小学校における教科担任制の導入についての試行案を計画する。

取組の概要

○管理職会議での協議を重ねた。
○小学校で1月から実施できる教科を検討した。6年生で、音楽と家庭について実施を試みようとしたが、時間割の変更には、算数の少人数授業やその他の学年等との調整ができず、年度途中での実施には至らなかった。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

○管理職会議において、教科担任制についての資料を提示した。
○24年度5年生で試行する運びとなったが、今後教科担任制の成果と課題を精査する課題も残っているため評価を3とした。

備考

方針

自他を尊重する豊かな心をはぐくむ

施策 ○いじめの早期発見・対応に努め、居心地のよい集団づくりの推進

目標及び目標とする姿

○一人ひとり、学級に友だちがいて、居場所がある。

取組の概要

○いじめの早期発見に役立つ実践や居心地のよい集団づくりにつながる実践事例を提供した。
○子どもを取り巻く人権課題について、学校の実態を交流し、課題を明らかにした。
○いじめの早期発見、居心地のよい集団づくりの実践事例について情報提供した。
○いじめ撲滅のための啓発方法について検討し、その取組を検証した。
○同研活動を通じて授業実践を交流・検証し、成果と課題を明らかにした。
○学校・学級での取組を通信で発信するように指示した。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

2

○各学校・園において、子どもの人間関係に着目して、遊びの展開や授業づくりをすすめており、意識としては、一人ひとりの子ども理解を深める研修も行ってきた。
○学級や学校における、人間関係をつなぐ行為として、言葉遣いについて課題と捉えるようになってきた。
○人と人をつなぐ言動として、何が大切かを考え合える集団づくりをすすめていく必要がある。

備考

- 幼稚園におけるなかまづくり研修会を開催した。
11月1日 中部幼稚園で公開保育参観
- 小学校におけるなかまづくり研修会を開催した。
10月12日 県教育委員会から後藤アドバイザーを招聘して実施した。
- 中学校では、自尊感情をはぐくむ授業づくりを行うことで、なかまづくりの基礎を学んだ。
12月2日 大阪教育大学 園田雅春 教授を招聘した。
- Q-U調査を小学校で実施し、分析結果を交流した。
第1回… 5月19日
第2回… 11月 8日
- アンケート結果について【資料編P20】参照。
◇Q-Uにの実施結果より、学級生活満足群の子どもが増えている学級の割合
- 「心のノート」「わたしかがやく」等の教材の活用について【資料編P27】参照。

方針

自他を尊重する豊かな心をはぐくむ

施策 ○自尊感情をはぐくむ教育活動のあり方の研究・実践
施策 ○自分を見つめ、人権感覚を磨く授業の研究・実践

目標及び目標とする姿

○一人ひとりが自分の大切さに気付き、生活しようとする意識を持つことができる。

取組の概要

○自尊感情をはぐくむことの大切さについての教職員の理解を深める機会を持った。
○授業など教育活動において、児童生徒の自尊感情をはぐくむ取組についての研修を行った。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

○中学校における授業づくり研修会を広域に案内して実施したことにより、木曾岬町の取組の課題を改めて確認することができた。
○「子育て・教育講演会」も同じ講師の方で進めることができた。保護者や地域の方にも参加いただき、家庭と連携し、子どもの自尊感情をはぐくむことの大切さについて学習する機会となった。アンケートも好評であった。

備考

○「自尊感情をはぐくむ授業づくり」研修会を開催した。
◇12月2日 中学校 1年生 授業提案
大阪教育大学 園田雅春 教授を招聘した。
園田教授からは、授業の展開の強弱、つぶやきの理解や活かし方など多くのことを学んだ。
○「子育て・教育講演会」を開催した。
◇12月20日 木曾岬町の住民、教職員を対象とした講演を開催した。
12月2日に続き、大阪教育大学 園田雅春 教授を招聘した。
自尊感情をはぐくんでいこうとするならば、家庭との協働が欠かせないことから、この講演会では、自尊感情をはぐくむことが、ゆくゆくは、その人の意欲を引き出し、学びを広げていくことになり、人として成長していくうえで、重要なポイントになることを保護者や地域の方々と共通認識する機会となった。
○アンケート結果…【資料編P13】参照。
「学校は、互いの人権を尊重することのできる子どもを育てている」と考えている保護者の割合
○「心のノート」「わたしかがやく」等の教材の活用…【資料編P27】参照。

方針

自他を尊重する豊かな心をはぐくむ

施策 ○司書との連携を密にした読書活動の推進

目標及び目標とする姿

○小中学校への定期的な司書の派遣により、学校図書館の環境整備を推進する。

取組の概要

○司書を派遣する専門業者と委託契約を締結し、小中学校に週1回ずつ司書を派遣した。
○三重県教育委員会の「学校図書館環境整備モデル緊急雇用創出事業」を受託し、小中学校に週2回ずつ、図書館スタッフを派遣した。
○三重県教育委員会の「いきいき読書リレー事業」を受託し、子どもたちがより多くの本に出会えるよう環境を整えた。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

○定期的に司書を派遣し、読書環境整備が推進した。
○平成24年度においても、「学校図書館環境整備モデル緊急雇用創出事業」を受託し、読書環境整備の推進を図る必要がある。
○「いきいき読書リレー事業」終了に伴う蔵書の今後の活用について課題が残るので、評価を3とした。

備考

○小中学校の図書館だよりの発行について…【資料編P19】参照。
○幼稚園における読書の取組について…【資料編P19】参照。
○学校の蔵書数について…【資料編P19】参照。

方針

自他を尊重する豊かな心をはぐくむ

施策 ○発達段階に応じた自然体験活動の推進

目標及び目標とする姿

○トマトープ活用計画を作成する。
※トマトープ・・・木曾岬小学校で管理するビオトープの名称

取組の概要

○小学校低学年(生活科)において、町内の自然環境に触れる学習機会を確保した。
○トマトープ年間計画を作成した。(備考参照)
○中学校1年生の宿泊体験学習を実施した。
○中学校2年生の農業体験学習を実施した。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

4

○トマトープ活用計画を作成したため、評価を4とした。
○町内の豊かな自然環境を活かした取組が充実しつつある。

備考

トマトープ活用年間計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
学年											
1	春をみつけよう。						秋を見つけよう。	木の葉を集めよ	冬の草木の様子		
2	春をさがそう						秋をさがそう	木の葉集め		木々の春準備	
3	身近な自然の観察					いろいろな昆虫の観	切って切ってトントントン(枝)				
4	春の草花・虫の観	夏の草花・虫の観				秋の草花・虫の観		冬の草花・虫の観			
5	田植え講師: 服部さん	稲の観察 魚が食べる物				稲刈り講師: 服部さん					
6	植物のつくりとはたら										
その他					PTAによる環境整備						

方針

自他を尊重する豊かな心をはぐくむ

施策 ○外国人とのふれあいによる国際理解教育の推進

目標及び目標とする姿

- 日常的なALTの派遣により、英語を通じたコミュニケーション能力の育成を支援する。
- インターナショナルデーに外国人講師を派遣することにより、多文化共生教育を推進する。

取組の概要

- 今年度より、ALTの任用を委託契約から指導者派遣契約に切り替え、学校・園からの指示系統を明確にして運用している。指導者についても現場から好評の声が聞かれた。
- インターナショナルデーの外国人講師の派遣については、業者に委託していた分を地域に住む外国人講師に随時切り替え、地域に根差した活動につなげてきた。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

4

- ALTについては、日常的な派遣が実現できており、今後も継続していく必要がある。
- インターナショナルデーについては、地域に根差した活動としての取組を進めていくために、さらに地元企業などとの連携を深める必要がある。来年度は、(株)マルアイのインドネシア人留学生を派遣すべく調整している。

備考

○インターナショナルデー講師について…【資料編P19】参照

方針

自他を尊重する豊かな心をはぐくむ

施策 ○郷土を知り、愛着を感じる授業の実施

目標及び目標とする姿

- 社会科副読本による地域学習計画を作成する。
- 地域の伝統芸能を子どもたちに継承することによって、地域への愛着を深める。

取組の概要

- 今年度、社会科副読本「わたしたちのまち 木曾岬町」改定版を小学校3・4年生に配布し、学習をはじめた。
- 地域の文化継承の観点で、昨年度に引き続き木曾岬音頭・小唄保存会の協力を得て、幼稚園及び小学校2年生児童への踊りの指導を実施した。
- 郷土への愛着を育む指導につなげるため、今年度木曾岬町に赴任した教職員を対象に、地域学習会を計画・実施した。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

- 地域の文化を継承する取組は引き続き実施していく必要がある。
- 地域の文化としては、その他「櫻華太鼓」の活動も注目すべきであり、社会教育との連携も今後の課題である。
- 社会科副読本の活用状況について、精査することや郷土学習につなげるための文化資料館の活用に課題があるため、評価を3とした。

備考

方針

なかまと支え合いしなやかな心と体をはぐくむ。

施策 ○少人数での話し合い活動や発表会などを通じた自分の思いを伝える能力の育成

目標及び目標とする姿

○少人数の活動を充実することで、意欲的に話し合おうとする。

取組の概要

学校の研修会に参加して、下記の点について指導・助言した。
○自分の思いを伝えたいような心の揺さぶりを喚起する指導を推進すること。
○自分の思いを伝えたいような問いや場面、指導法について情報提供すること。
○話し合いを意欲的に進めるためのコミュニケーションスキルについて指導すること。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

○4人を基本とした少人数グループとして、活動する機会を多く確保してきた。
「自分の意見や考えを發表している」と考える子ども、「子どもは、人の話を聞き、自分の考えや思いを伝えられる力(コミュニケーション能力)が備わってきている」と考える保護者が多く、今後もさらに少人数の活動を取り入れていくことで、コミュニケーション能力の育成を図り、何事にも意欲的に取り組める子どもの育成に努めていく必要がある。

備考

○アンケート結果・・・【資料編P11】参照。
◇「先生や友だちの話をしっかり聞くことができる」と考える子どもの割合
◇「自分の意見や考えを發表している」と考えている子どもの割合
◇「子どもは、人の話を聞き、自分の考えや思いを伝えられる力(コミュニケーション能力)が備わってきている」と考える保護者の割合

方針

なかまと支え合いしなやかな心と体をはぐくむ。

施策 ○宿泊体験学習などの機会を通じたなかまづくりの推進

目標及び目標とする姿

○新たな自分や他の人への発見を通じて、仲間の大切さに気付くことができる。

取組の概要

- 小学5年生による、キャンプ活動の実施した。
- 小学6年生による、修学旅行の実施した。
- 中学1年生による、宿泊体験学習の実施した。
- 中学3年生による、修学旅行の実施した。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

- 小学校、中学校いずれも安全に宿泊体験を行った。
- 中学校の修学旅行については、東日本大震災のことがあり、急遽、行き先の変更を余儀なくされたので、6月に実施となったが、充実した修学旅行となった。
- 中学校1年生の宿泊体験学習ははじめて実施された。生徒は、自主的な行動を大切に、中学校のスタートにあたって、絆を深める機会となった。

備考

- 小学校
 - ◇ 7月21日、22日 5年生…キャンプ
 - ◇ 10月18日、19日 6年生…修学旅行
- 中学校
 - ◇ 5月25日～26日 1年生…宿泊体験学習
 - ◇ 6月22日～24日 3年生…修学旅行

【資料編P22】参照。

方針

なかまと支え合いしなやかな心と体をはぐくむ。

施策 ○職場体験学習を通じたキャリア教育の推進

目標及び目標とする姿

○仕事や将来の生き方を深く見つめる機会を通じて、その後の学校生活に目標意識や計画性が芽生える。

取組の概要

○中学2年生において、3日間の職場体験学習を実施。その後、生徒同士で参加体験の交流会の機会を持った。
○中学1年生において、卒業生を迎えて仕事について話を聴く機会を持った。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

○「自分から考えて、工夫して動く」ことが大切であることに気付く機会となった。この3日間で学んだこと、感じてきたことを交流することができた。
○受入先でも、こうした経験はいいことであるとの評価をいただくこともあり、今後も継続していくことで、今後の生き方を見つめる貴重な体験活動として位置付けていきたいと考える。

備考

○職場体験学習
◇5月25日～27日

○中学2年生、58名が17の事業所で職場体験を実施した。

○受入施設

マクドナルド(2) 柴田家具(2) 木曾岬中部幼稚園・保育園(8)
木曾岬南部幼稚園・保育園(9) 玉龍宴(2) 喫茶 さかえ(2)
喫茶 マイウェイ(2) IPCペットふれあい王国(5) イマジン(3)
福祉施設すいせんの里(2) 桑名消防署長島木曾岬分署(3)
長島中央病院(3) Yショップ(3) モスバーガー(4)
佐藤石油(2) サークルK(4) タチヤ(2)

○中学1年生

卒業生(「ルコパン」「あさひ園」に勤める)を迎えて、仕事について話を聴いた。
・仕事についた理由 ・仕事の大変さ、楽しさ、やりがいなどについて

方針

なかまと支え合いしなやかな心と体をはぐくむ。

施策 ○一人ひとりの思いに耳を傾ける教育相談体制の整備

目標及び目標とする姿

○スクールカウンセラーを配置することにより、教育相談体制整備を図る。

取組の概要

○スクールカウンセラー活用事業を受託し、中学校への定期的なスクールカウンセラーの派遣を実現した。
○「特別支援体制整備事業」(三重県教育委員会事業)を受託し、小学校へのスクールカウンセラーの派遣を実施した。
○CAPきそさき(虐待防止ネットワーク会議)に教育委員会事務局代表として参加し、教育相談が必要だと思われるケースについては、適宜情報提供した。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

4

○スクールカウンセラー活用事業の取組はもとより、小学校への巡回相談・就学支援委員会への招聘・特別支援教育コーディネーター連絡会議への招聘等幅広く活用できたため、評価を4とした。
○今年度配置されたスクールカウンセラーは初任であったため、生徒・児童の把握が手探りだった部分もある。今年度把握した情報を来年度の相談体制に活かす必要がある。

備考

方針

なかまと支え合いしなやかな心と体をはぐくむ。

施策 ○すべての子どもが積極的に運動に取り組める体制の研究・実践

目標及び目標とする姿

○運動に親しみ、自らの健康を維持・向上させていこうとする意識で生活しようとする。

取組の概要

- 小学5年生で体力テストを行い、体力の現状を知る機会を持った。
- 小学校では、なわとび運動などを取り入れて、調整力を高め、バランスのよい体づくりを進めた。
- 運動部活動における指導の充実を図った。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

2

- 体力の現状については、毎年、計測をしていない。
- 近年、子どもの体力が下がってきていることから、木曾岬町の子どもたちの体力の現状を把握する機会を定期的を持つことで、体力の把握や向上策について検討していく必要がある。

備考

- 小学校
 - ◇縄跳び運動・鉄棒運動カードの取組を行った。
 - ◇学校での外遊びの時間設定を行った。
- 中学校
 - ◇運動部活動において外部人材を活用した。
スポーツ外部人材派遣事業(三重県教育委員会事業)を受託した。
バレー部
柔道部
テニス部
サッカー部
- 小学校において、体力・運動能力調査を実施(三重県抽出)した。

方針

なかまと支え合いしなやかな心と体をはぐくむ。

施策 ○栄養教諭を中心とした食育推進計画の作成・研究

目標及び目標とする姿

○栄養教諭と連携し、食育計画を作成する。

取組の概要

○食育計画の作成については、年度当初栄養教諭と打ち合わせを行い、作成について指示した。
○平成23年度において、小学校分は作成。中学校については未作成の状況である。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

2

○中学校の食育計画未作成のため、評価を2とした。
○作成された食育計画について、計画の随時見直しと進行管理の必要がある。

備考

○食育推進計画…【資料編P24～26】参照。

方針

なかまと支え合いしなやかな心と体をはぐくむ。

施策 ○保護者と連携した健康教育の推進

目標及び目標とする姿

○健康な生活を維持・向上させていこうとする意識を高めていく。

取組の概要

○学校だより、学年・学級だより、保健だより等を通じて、予防や学校での取組を保護者に伝えるなどの啓発を行った。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

2

○学校から保護者には、風邪の流行りそうな時期やその兆候を捉えて案内をしている。
○健康づくりは、日々の食生活から生活リズムといった多岐にわたる要素を含んでいる。保護者や地域の現状を把握して、より実態に応じた取組を講じていく必要がある。

備考

- 小中学校
 - ◇保健だより ……15号発行した。
 - ◇次の検査、検診等を実施した。
 - 身体測定
 - 心電図検査
 - 耳鼻咽喉科検診
 - 歯科検診
 - 内科検診
 - 尿検査
 - 眼科検診
 - ◇注意喚起を行った。
 - 熱中症対策
 - インフルエンザ対策
 - ◇指導・啓発した。
 - 体の学習

方針

保護者・地域と協働してすこやかな子どもを育てる

施策 ○「子育て 8つの指針」に基づいた取組の推進

目標及び目標とする姿

○「子育て 8つの指針」の取組について、保護者に周知する。

取組の概要

- 各校での通信等による「子育て 8つの指針(家庭学習)」についての取組紹介等発信した。
- 保護者啓発の講演会・学習会の開催を指示した。
- 教育委員会だよりをはじめ、学校・園だよりで紹介してきた。
- 「教育講演会」のはじめで紹介してきた。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

2

- 小中学校では、学校だよりにより、家庭学習の進め方について、校長自身の経験を紹介した。
- 教育委員会としても、家庭と協働して子育てを進めることを狙いとして、毎月教育啓発記事掲載し啓発に努めた。
- 今後も、学年、学級だより等を通じて、より多くの保護者に「子育て 8つの指針」が理解され、子育てに役立つよう啓発していく必要がある。

備考

「子育て 8つの指針」について・・・【資料編P29】参照。
平成23年3月策定のトマッピー教育プランに掲載している。(ホームページにもアップしている。)

方針

保護者・地域と協働してすこやかな子どもを育てる

施策 ○保護者との連携を密にした家庭学習定着の取組の推進

目標及び目標とする姿

○一人ひとり進んで家庭学習するよう意識を高める。

取組の概要

○8月に大学教授を招聘して、教員の研修会を開催した。

○各校での通信等による「子育て 8つの指針(家庭学習)」についての取組紹介等発信した。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

2

○家庭学習を教職員側から発信していくことについて学ぶ機会を持った。
○特に、家庭学習の定着について意識した学校だより等を発行する機会を持つようにしたが、学年や学級まで広げた取組に至らなかったことから、評価を2とした。

備考

○8月24日 帝京大学 矢野教授を招聘した。
「これからの家庭学習のあり方について」
下記のようなポイントで講演を聴いた。

- ・家庭との連携のあり方
- ・様々な家庭環境にどのように対応するか。
- ・“自分で課題をつける”ということについての具体的な方策
- ・発達段階に応じた家庭学習のあり方について
- ・授業改善と家庭学習の関係について

方針

保護者・地域と協働してすこやかな子どもを育てる

施策 ○保護者との連携を密にした情報モラル教育の研究・実践

目標及び目標とする姿

○学校と保護者で共通理解を図る機会を持つ。

取組の概要

○ICT活用支援員を通じて、児童生徒の情報操作の力量や実態を把握してきた。
○情報モラルとして、発達段階に応じた系統的な情報モラル教育の進め方について資料収集を図った。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

2

○学校での電子黒板、実物投影機の活用は定着してきているが、情報の扱い方や情報の活用については、一部ではあるが、個人のプライバシーに係るいたずらなどが見られることから、保護者にも、こうした現状を伝えて、今後も、一層、情報の扱いについて、保護者と協働して子どもを指導していく必要がある。
○情報の伝達に止まり、協議や学習の機会をもつことが出来ていない。

備考

方針

保護者・地域と協働してすこやかな子どもを育てる

施策 ○青少年育成町民会議と連携した子どもの健全育成の取組の推進

目標及び目標とする姿

○会議における情報発信、日常の情報共有を円滑にすすめる。

取組の概要

- 青少年育成町民会議に園長、校長が出席し、幼稚園や小中学校の現状と会議で報告される内容について整理し、必要に応じて、見直しを図ってきた。
- 見守り等、児童生徒の安心・安全確保の面で協力いただいていることを児童生徒、保護者に発信してきた。
- 小学校の帰宅時間に合わせて、役場の放送とともに、見守りを行った。
- 帰宅時間、通学路の情報など、円滑に伝達できるようにしておく必要がある。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

○地域や社会情勢の日々変化しており、不審者事案等、不安な地域の環境の中では、子どもの学習する気力も半減するものと思われる。したがって、今後も、地域と連携し、協働して子育てを進めていくことについて協議する機会を充実していく必要がある。
○円滑な連携を進めるうえで、帰宅時間、通学路の情報などを速やかに伝達していく必要がある。

備考

自分を出し切って、意欲的に活動する子の育成

施策 ○遊びを中心とした保育の充実
施策 ○保育者のかかわりと環境設定の工夫による保育の充実

目標及び目標とする姿

○健康 生き生きと遊び、できることは自分でしようとする子の育成

取組の概要

○幼児が生き生きと活動するような環境構成をいくつか工夫して設定するようにした。
○自発活動の時間を見直し、幼児の遊びが途切れないようにした。
○遊具の点検等を確実に実施して、安心して遊べるようにしてきた。
○年齢に応じた基本的生活習慣の育成に心がけてきた。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

○環境構成の工夫により、幼児自らが活動を選択して生き生きと遊ぶ姿が増えた。
○楽しく、元気に活動する子が増えた。
○生き生きと遊び込めるようになってきた。
○自分で工夫して遊びに取り組めるようになってきた。

備 考

自分を出し切って、意欲的に活動する子の育成

施策 ○遊びを中心とした保育の充実
施策 ○保育者のかかわりと環境設定の工夫による保育の充実

目標及び目標とする姿

○人間関係 友だちの気持ちを思いやり、いっしょに考え支え合っていく子の育成

取組の概要

○人権擁護委員の方から絵本の読み聞かせを聞く機会を持った。
○縦割り保育で異年齢児との関わりを持つようにしてきた。その際の言葉掛けの工夫に努めた。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

○その場に応じた言葉がけができる幼児の姿が見られるようになってきた。
○様々な活動の中で、まわりの幼児を誘って遊びを進めたりする姿が見られるようになってきた。

備考

自分を出し切って、意欲的に活動する子の育成

施策 ○遊びを中心とした保育の充実
施策 ○保育者のかかわりと環境設定の工夫による保育の充実

目標及び目標とする姿

○環境 身近な環境に積極的にかかわり、様々な物事に興味・関心をもとうとする子の育成

取組の概要

○幼児の発達段階、季節に応じた環境設定に努めた。
○幼児が興味・関心を持てるような言葉がけの工夫に努めた。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

○自然とまわりの環境に働きかける幼児の姿が見られるようになってきた。
○まわりの物事に興味・関心を抱いて行動する幼児の姿が増えてきた。

備 考

自分を出し切って、意欲的に活動する子の育成

施策 ○遊びを中心とした保育の充実
施策 ○保育者のかかわりと環境設定の工夫による保育の充実

目標及び目標とする姿

○言葉 人の話をよく聞き、互いの思いを伝え合おうとする子の育成

取組の概要

- 正しい言葉遣いや温かい言葉がけに努めた。
- 集団行動になる時、丁寧に話しかけるように努めてきた。
- 絵本の読み聞かせでは、話をしている人に顔を向けて聴くように指導してきた。
- 自分の思いを互いに伝える場を持つように心がけてきた。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

2

- 全体活動や一斉指導の時に話を集中してきく幼児が増えてきた。
- 互いの思いを伝える機会を持つように心がけてきたが、十分とはいえなかったため、今後も、意識して指導に当たるよう継続して取り組んでいく。
- 正しい言葉遣いがまだ苦手な幼児が見られるので、粘り強く指導・支援していく必要がある。

備 考

自分を出し切って、意欲的に活動する子の育成

施策 ○遊びを中心とした保育の充実
施策 ○保育者のかかわりと環境設定の工夫による保育の充実

目標及び目標とする姿

○表現 自分の思いを豊かに表現できる子の育成

取組の概要

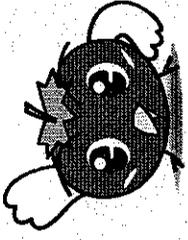
○やってみたいことができるように、多様な素材を活用して環境を設定するように心がけてきた。
○遊びの中で変化していく幼児の発想を丁寧に見守り、言葉をかけていくように努めた。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

○自分で選び、工夫しながら制作したり、踊ったりするなど自由に自分の思いを表現することができる幼児が見られるようになってきた。
○豊かな表現となるように、表現の仕方について多様なものを提供できるようにしていく。
○今後も、楽しんで表現活動ができるように、幼児の様子を丁寧に見守りながら保育を進めていく必要がある。

備 考



学びの輪がひろがるまち

生涯学習の推進

○多様な住民参画による、生涯学習環境の構築を推進する。

- (1) 文化協会への活動支援と連携強化
- (3) 住民ニーズに即した公民館講座の提供

(2) 読書環境の充実

生涯スポーツの推進

○子どもから高齢者までふれあうことができるスポーツ環境の構築を推進する。

- (1) 各種スポーツ団体への活動支援と連携強化
- (3) きそさきAZクラブへの活動支援と連携強化

(2) スポーツ関連施設の維持・充実と効果的な活用

文化振興の推進

○郷土の文化を大切にし、活用できる環境の構築を推進する。

- (1) 子どもたちへの伝統芸能の継承
- (3) 文化資料館の有効活用

(2) 町内文化資源の調査・保護の推進

人権教育の推進

○人権問題を一人ひとりの問題として受け止め、教育や啓発活動を通じ、人権尊重のまちづくりを推進する。

- (1) 町人権同和教育研究協議会との連携による研修活動の展開
- (2) 町人権同和教育研究協議会との連携による啓発活動の展開

○家庭・学校・地域社会が一体となり、子どもたちを見守り、支えられる地域社会づくりを推進する。

- (1) 青少年町民育成会議との連携
- (3) 若者が参画するまちづくりの推進
- (4) ホリデー教室の推進

青少年健全育成の推進

方針

多様な住民参画による、生涯学習環境の構築を推進する。

〔生涯学習の推進〕 施策(1) ○文化協会への活動支援と連携強化

目標及び目標とする姿

- ・文化協会加盟団体による文化イベントを15回開催する。
- ・文化祭をはじめとした文化イベントを開催し、町民が芸術や文化にふれ合う機会を設ける。

取組の概要

- 文化協会の内規を見直し、各種単位サークルへの補助金交付制度を改正し、より多くの活動に対し支援する体制を整えることで、自主的な文化活動を助長する。
- 町民主体の文化祭を開催するとともに、町民が身近な場所で参加できる文化イベントを開催し、相互の親睦、教養、文化の向上を図る。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

4

- 文化協会加盟団体の自主的な発表会、展示会の開催回数が前年比で5回増加し目標とした16回開催できた。
- 文化協会主催のニューイヤーコンサートを開催し、100名を超える来場者を迎え、町民が一流の芸術に触れていただける場を提供出来た。このことにより、当初目標としていた事業を開催し町民文化の醸成を図ることができたため、評価を4とした。

備考

- 文化祭(平成23年11月5・6日開催)参加団体24団体(公民館講座、福祉団体及び小学生を含む):来場者(参加者を含む)607名
- ニューイヤーコンサート(平成24年1月22日開催)(嗣名古屋フィルハーモニー交響楽団弦楽五重奏&ハープ):来場者118名

○文化協会加盟各団体の活動状況(補助対象事業分)

団体名	活動内容	開催日等
木曾岬陶芸クラブ	個展(国営木曾三川公園水郷パーク) 個展(北部公民館)	H23.4.1~H23.5.31 H24.1.10~H24.1.24
陶芸サークル釉友	個展(福祉教育センター)	H24.1.22~H24.1.27
三色すみれ	個展(北部公民館)	H23.12.1~H23.12.25
書道サークル	個展(福祉教育センター)	H24.3.8~H24.3.21
ペン習字サークル	個展(福祉教育センター)	H23.7.1~H23.8.3
木曾岬櫻華太鼓の会	児童館祭り演奏会(愛西市北可和田児童館)	H23.11.19
コール岬	フラワーコーラス演奏会(桑名市民会館)	H23.6.26
うたごえサークル	慰問活動(介護老人保健施設ハート〔桑名市〕)	H23.7.19外
フラマヒナ木曾岬ピキ	慰問活動(湾岸さくら、すいせんの里)	H23.7.30/8.21
木曾岬さくら舞	につぼんど真ん中祭り(名古屋市)	H23.8.27~H23.8.28
華の会	慰問活動(すいせんの里、湾岸さくら、JA祭外)	H23.5.1
木曾岬音頭・小唄保存会	夕涼み会(中部・南部幼稚園保育園)	H23.7.1
盆栽愛好会	農協祭(JA桑名木曾岬支店)	H23.5.20~H23.5.21
菊の会	個展(福祉教育センター)	H23.11.5~H23.11.6

方針
 多様な住民参画による、生涯学習環境の構築を推進する。

〔生涯学習の推進〕 施策(2) ○読書環境の充実

目標及び目標とする姿
 ・北部公民館図書室における特設コーナーを10回設置する。

取組の概要
 ○図書館司書の協力を得て、時節にあった特設コーナーを10回設置するとともに、教育委員会HPに掲載するなど図書に関する広報にも手掛けた。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

4

- 特設コーナーを10回設置したため、評価を4とした。
- 平成23年度、三重県立図書館と業務提携し、県立図書館の本を北部公民館図書室で貸し出すサービスを開始した。
- 3月には、三重県立図書館と提携し、「被災地を忘れない」と題したパネル展示会を開催した。
- 三重県立図書館との提携に関わる業務に専門性が要求されるため、司書の配置を充実させる必要がある。

備考

○特設コーナー：【年間テーマ】共に生きる

	期間	テーマ	キャッチフレーズ	紹介する本の分野
第1回	4月中～5月下	国際	世界中のともだちとつながろう	・外国語 ・国際理解 ・グローバル化 他
第2回	6月	歴史	むかし むかしの そのむかし	・日本の歴史 ・世界の歴史 ・神話 他
第3回	7月	運動	とんだ、走った、汗かいた	・人体、生命 ・運動会 ・生活習慣 他
第4回	9月	地域	みんなは まちの サポーター	・郷土学習 ・学童保育 ・社会福祉 ・環境 他
第5回	10月	食育	「いただきます」は感謝の言葉	・栄養学 ・地産地消 ・季節の食べもの 他
第6回	11月	職業	大きくなったら 何になる？	・職業調べ ・夢、冒険、キャリア ・働く権利 他
第7回	12月	情報	しらべて まとめて 発表します	・情報化社会 ・デジタル機器 ・インターネット 他
第8回	1月中～2月中	生活	カレンダーを めくったら…	・干支、和暦、節季 ・世界の暦、星 ・年中行事 他
第9回	2月中～3月中	仲間	あなたがいてくれてしあわせ	・思いやり、友情 ・哲学 ・ペット 他
第10回	3月下	未定	東北を忘れない	・東日本大震災関係

方針

多様な住民参画による、生涯学習環境の構築を推進する。

〔生涯学習の推進〕 施策(3) ○住民ニーズに即した公民館講座の提供

目標及び目標とする姿

・住民ニーズに基づき、短期講座を開設する。

取組の概要

○定期講座については、英会話、パソコン等の講座を開講したが、短期講座については住民主導のコミュニティ活動として開講することを目指していることから、文化協会と検討を重ね実施する方向で協議を図った。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

2

- 文化協会主催で開講することは合意されたが、内容の検討や日程調整の関係で開講するまでには至らなかったため、評価を2とした。
- 技能や技術を要する講座(パソコン、外国語等)は行政主導で開講し、芸術分野、趣味嗜好分野の講座は、地域文化の自主活動を助長し、コミュニティ活動を活性化するため、文化協会との協働により指導者や支援者の育成を図っていかねばならない。

備考

方針

子どもから高齢者までふれあうことができるスポーツ環境の構築を推進する。

〔生涯スポーツの推進〕 施策(1) ○各種スポーツ団体への活動支援と連携強化

目標及び目標とする姿

- 体育協会・体育指導委員会へ役場職員を派遣し、連携を深める。
- 各団体、自主性の意識を高めながらも、対応しきれない部分等は教育委員会にて対応する。

取組の概要

- 体育協会へは役場課長級職員を1名、体育指導委員会へは課長補佐級職員を1名派遣することにより、連携を図った。
- 各種スポーツ団体(体育協会・スポーツ少年団等)の事務局を教育委員会が担うことで各団体と連携を図った。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

4

- 役場職員を派遣し、連携を深めることを目標としているため、評価を4とした。
- 各種スポーツ団体の事務局を教育委員会で行っているため、連携はすでに図られている。日程調整も概ね調整出来た。
- 教育委員会が事務局となっていることにより連携が図られているが、反面事務的負担が非常に大きく、日曜日等休日にほとんど出勤している状態となっている。将来的には社会教育団体の事務を行うスポーツ振興室(仮称)といった組織を立ち上げることも検討していく必要がある。それまでの期間については、臨時職員として、社会教育支援スタッフの配置が必要となる。

備 考

方針

子どもから高齢者までふれあうことができるスポーツ環境の構築を推進する。

〔生涯スポーツの推進〕 施策(2) ○スポーツ関連施設の維持・充実と効果的な活用

目標及び目標とする姿

- 保守点検を実施し、指摘を受けた事項を速やかに修繕する。
- 利用団体への施設利用についての問題点や要望等を聞き取る。

取組の概要

- 施設の定期的な保守点検を実施することにより、安全管理を図っている。
- 国交省施工の木曾川堤防工事により、影響のあった木曾川グラウンドについて、復旧方法等を利用団体と協議し、施設を効果的に利活用出来るように努めた。
- 体育協会及び加盟団体へ施設等の要望や意見聴取を行い、適切な維持管理に努めた。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

4

- 保守点検の実施及び指摘事項の修繕を目標としており、継続して実施しているため評価を4とした。
- 保守点検の適正な実施については、平成22年度社会教育委員会においても指摘されており、今後も体育施設の適正な管理に努める必要がある。

備 考

- 町体育館空調設備点検整備(11/30完了)
- 町内体育施設定期点検によるAランク指摘箇所修繕工事(11/2完了)
〔鍋田川G境界ポール、ちびっ子広場支柱及びネットフェンス〕
- 木曾川グラウンド内野部修繕工事(3/16完成予定)
- 鍋田川テニスコートライン張替工事(12/15完了)
- 町体育館吊下バスケットゴール電動昇降機取替工事(1/13完了)

方針

子どもから高齢者までふれあうことができるスポーツ環境の構築を推進する。

〔生涯スポーツの推進〕 施策(3) 施策 ○きそさきAZクラブへの活動支援と連携強化

目標及び目標とする姿

- イベントの参加申込み等、窓口業務を支援する。
- 県を含め、問題点や課題等を協議・打合せする。

取組の概要

- 従来から実施していた公民館講座の内、スポーツ系講座である「ヨガ」「ハタヨガ」をAZクラブに委託し、平成23年度よりきそさきAZクラブの受託講座として実施することで、財政的な支援をする。
- 県とAZクラブと町にて平成23年度中に協議・打合せを実施し連携を図る。
- イベントや加入申込等クラブ事務所が開所していない時の窓口業務を、教育委員会で代行し業務支援を行う。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

- 窓口業務等の支援を円滑に行うことが出来た。
- 県を含めた今後の課題や問題点等を協議することが出来た。
- 新規で教室を開講しようとしても、「施設」がないため、どのように開講する場所を確保して行くのが今後の課題となる。
- 経営基盤を安定させていくために、今後どのように会員を増やして行くのか、又、スポーツ少年団等の他団体とどのように連携を図っていくか、検討していく必要がある。

備考

方針

郷土の文化を大切にし、活用できる環境の構築を推進する。

〔文化振興の推進〕 施策(1) ○子どもたちへの伝統芸能の継承

目標及び目標とする姿

・町内の保存会による子どもたちへの伝統芸能の指導を5回以上行う。

取組の概要

- 櫻華太鼓保存会では、社会教育の分野で太鼓教室を通じて24回/年する。
- 木曾岬音頭・小唄保存会においては幼稚園・保育園児や小学生の授業カリキュラムの一環として指導に当たる。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

○太鼓及び音頭小唄保存会では、保存会の指導により子ども達への伝承活動がなされ、夏まつり・文化祭などに参加することにより町の文化振興への貢献もできている。しかしながら、音頭・小唄については授業カリキュラムに組み込まれていることから指導回数や対象学年に限りがあるため、評価を3とした。

備 考

- 太鼓教室:第2・4土曜日開催(24回)、ホリデー教室(2回/年)
- 音頭・小唄:幼稚園 6月(6回:2園×3日間)
- 小学生 6・7月(2回:2年生)

方針

郷土の文化を大切にし、活用できる環境の構築を推進する。

〔文化振興の推進〕 施策(2) ○町内文化資源の調査・保護の推進

目標及び目標とする姿

・町内にある文化資源の調査を実施する。

取組の概要

○平成23年度、国土交通省中部地方整備局木曾川下流河川事務所調査課が編集・発行している季刊誌『KISSO』Vol. 80に、「木曾岬町文学散策」と題して、町内にある句碑について調査したものを研究資料として掲載した。(別紙資料添付)

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

○木曾岬町史にも記載のある句碑について調査を実施、また木曾川沿岸市町に配付される季刊誌に掲載し、周知を図ったため評価を3とした。

○その他、木曾岬音頭・小唄に詠まれる風景や、輪中形成の過程など、調査すべき内容が残されている。

○町内文化資源については、学校を通じて広く子どもたちに教えていくことや、赴任した先生への啓発も継続して実施する予定である。

備考

方針

郷土の文化を大切にし、活用できる環境の構築を推進する。

〔文化振興の推進〕 施策(3) ○文化資料館の有効活用

目標及び目標とする姿

- ・学校の授業での活用を図る。
- ・企画展を開催する。

取組の概要

- 小学校3年生の社会科において、町内の施設を見学することから、教育委員会事務局担当が小学校担当教諭と協議し、見学の際には館内の資料を説明した。
- 今年度木曾岬町に赴任した小中学校の先生を町内の施設・工場等に案内する際、文化資料館も見学先の一つとして計画を立てた。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

2

- 学校の授業での活用がなされているが、広く一般の利用率は向上しておらず、企画展も開催されていないため、評価を2とした。
- 企画展については、今年度はやろまい夏まつりにおけるプラネタリウム企画に代替した。
- 文化資料館については、伊勢湾台風の問い合わせの需要が年に数回程度あり、当時を風化させないためにも歴史資料館としての意義は大きい。
- 23年度において施設の老朽化によるジオラマ改修調査を実施し、計画を検討したが、防災対策情報の取り込みや町内に点在する史跡、観光施設など総合的な計画を持って改修することとした。

備考

方針

人権問題を一人ひとりの問題として受け止め、教育や啓発活動を通じ、人権尊重のまちづくりを推進する。

〔人権教育の推進〕 施策(1) ○町人権同和教育研究協議会との連携による研修活動の展開

目標及び目標とする姿

- ・町人権同和教育研究協議会理事会における研修を2回以上実施する。
- ・研修会の充実を図る。(参加者アンケート 大変よかった。または、よかった。80%以上)

取組の概要

- 町人同研の理事会、事務局会において、研修計画の立案や検証を行うとともに、町内各教育機関の研究紀要を取り纏める。
- 県内外の各種研究大会や研修会に参加し見聞を拓げる。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

4

- 23年度において、6回の理事会、4回の事務局会を開催するとともに、三人協等の研究大会にも参加する等積極的に参加し、見識を広めることができた。
- 紀要の策定や理事会の研修会を3回開催できたため評価を4とした。
- 24年度も理事会として、先進地視察や学習会等で研修内容の充実を図っていく事を確認した。

備考

- 理事会での学習会
 - ・町民意識調査の結果を活用してワークショップを実施。
 - ・トリックアートを活用してワークショップを実施。

方針

人権問題を一人ひとりの問題として受け止め、教育や啓発活動を通じ、人権尊重のまちづくりを推進する。

〔人権教育の推進〕 施策(2) ○町人権同和教育研究協議会との連携による啓発活動の展開

目標及び目標とする姿

- ・町人権同和教育研究協議会で啓発活動を1回以上実施する。
- ・啓発活動の充実を図る。

取組の概要

- 地域における人権・同和啓発事業として、人権啓発映画会と講演会を実施し、その結果を検証した。
- 新たな取り組みとして、北勢地区広域で講演会を実施し、他市町の教育関係者の参加も得られた。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

- 毎年の人権啓発活動として、映画会や講演会の開催が地域に根付いてきており、アンケート結果から検証して参加者の満足度も高いものを得る事が出来た。
- 2つの研修会ともそれぞれ100名近い地域住民に参加していただいているが、参加者にやや偏りが見受けられる課題が残り、地域により広く啓発していく必要があるため、評価を3とした。

備考

- 人権映画会 12/4開催「塔の上のラプンツェル」
※参加者98名 アンケート結果 97.99%
 - 人権講演会 2/12開催「こころをみつめる」講師:川村妙慶 氏〔僧侶・アナウンサー・華道家〕 ※参加者98名 アンケート結果 95.83%
 - 子育て教育講演会(県事業:北勢広域人権調査研究協議会との共催)
12/20開催「こんな時 子どもはステキに正しく育つ」講師:園田雅春 氏〔大阪教育大学教授〕 ※参加者82名 アンケート結果 98.78%
- *アンケート結果は「とてもよかった」「よかった」を累計した数値。

方針

家庭・学校・地域社会が一体となり、子どもたちを見守り、支えられる地域社会づくりを推進する。

〔青少年健全育成の推進〕 施策(1) ○青少年育成町民会議との連携

目標及び目標とする姿

○青少年育成町民会議と協働することにより、未来を担う子どもたちを健やかに育むために、地域の住民が自らの知識や経験を学校の支援に活かすことにより地域の教育力を高める基盤作りを推進する。

取組の概要

○町民会議の理事会において、町の園児・児童・生徒の様子や学校の情報等を共有化することにより町内の子どもたちの健全な育成に努めている。

○小・中学生に健全育成標語や中学生に人権作文の作品募集を行うことで子ども達が考えていること、また地域への関心を深める意識の醸成を図った。

○町民会議との協働により中学生の見守りボランティアを募り、安心安全なまちづくり事業の一端を担う事業展開を実施した。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

4

○町民会議により従来から実施している「挨拶運動」「健全育成パトロール」や学校支援地域本部事業の一環として実施している各教育機関への「環境設備支援活動」、「学校行事の開催支援活動」及び「登下校安全確保支援事業」など多様な事業を実施するなどの成果がみられることから評価を4とした。

備考

- 理事会開催回数:3回(H23.12月現在)
- あいさつ運動実施延参加人数:64名(H24.1月現在)
- 健全育成パトロール実施回数:8回31名(H23.12月現在)
- 中学生子ども見守りパトロールボランティア登録者数:62名/下校時間メール配信登録者数17名(H24.1月現在)

方針

家庭・学校・地域社会が一体となり、子どもたちを見守り、支えられる地域社会づくりを推進する。

〔青少年健全育成の推進〕 施策(2) ○学習支援ボランティアによる子どもの学習や体験活動のサポート体制の構築

目標及び目標とする姿

・学習支援ボランティアの現状把握と学校の意向調査を実施する。

取組の概要

○読み聞かせボランティア(町内の有志)による小学校における読み聞かせ会を年間3回(5・10・1月)実施。授業の時間を使った読み聞かせ会は低学年を対象としたものであるが、昼休みには全校児童を対象とした読み聞かせを行っている。

○小学校1年生には生活科の授業として、老人クラブの皆さんとの交流会が開催され、昔ながらの遊び体験(けん玉、メンコ、お手玉、あやとり等8種類の遊び)と給食を食べながら親睦を深めている。

○小学校5年生が毎年行っている「米作り」体験学習では、地域の方をゲストティーチャーとして招き、学習を進めている。

○中学校の学校祭(10月12日・13日)において、地域の方をゲストティーチャーとして招き、「トールペイント」、「手芸」、「料理」、「フラダンス」、「和太鼓」、「琴」の講座を実施した。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

○読み聞かせや総合学習への地域人材の活用について、毎年の活動として位置づいてきている。

○例えば算数の採点ボランティアなど、学習への活用についての取組に課題があるため、評価を3とした。

備考

方針

家庭・学校・地域社会が一体となり、子どもたちを見守り、支えられる地域社会づくりを推進する。

〔青少年健全育成の推進〕 施策(3) ○若者が参画するまちづくりの推進

目標及び目標とする姿

・「新成人と語る集い」を開催する。

取組の概要

○平成23年12月26日(月)新成人代表と町長・議長・町幹部職員が木曾岬町について語り合う「新成人と語る集い」を開催した。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

3

- 「新成人と語る集い」を開催したが、さらに若者の自主性を全面に出した企画にしていく必要があるため、評価を3とした。
- 会当日は、ケーブルテレビの取材を依頼しPRをした。
- 新たな試みとして、この会で話し合われた内容をもとに、成人式で行われた新成人代表による「決意表明」を作成し、成人式で発表した。
- これらの仕掛けにより、若者(新成人)から寄せられた提言をいかに行政推進施策に取り込んで活力のあるまちづくりに反映して行くのかについて、具体的な方策を検討していかなければならない。

備考

方針

家庭・学校・地域社会が一体となり、子どもたちを見守り、支えられる地域社会づくりを推進する。

〔青少年健全育成の推進〕 施策(4) ○ホリデー教室の推進

目標及び目標とする姿

・ホリデー教室の継続実施と教室内容を充実する。

取組の概要

- ホリデー教室を年間24回開催した。
- 学童保育所との連携を図るため、放課後子どもプラン運営委員会を開催した。
- 昨年の課題として「地域人材の発掘」を挙げていたことを踏まえ、今年度新たに町内講師(元子ども会会長「紙飛行機教室」)を登用した。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性について

4

- ホリデー教室の知名度も高まってきており、定員を超える申し込みがある教室もある。定員を超えた教室については、講師と調整の上追加教室を実施したり、実施場所を調整し受け入れたりして対応しているため評価を4とした。
- 北部公民館を中心に実施しているが、土曜日に他の団体が使用することが多く、施設不足の面で課題がある。

備考

教室名	開催日	参加者数	教室名	開催日	参加者数
子どもの日のかしわ餅作りと工作	4月23日	15	お絵かきハロウインのパンケーキをつくろう	10月15日	23
母の日のプレゼント・カリカリラスク	5月7日	36	パッチワーク風クリスマスリース	10月22日	22
アジサイとかたつむりを粘土で	5月28日	17	秋の文化祭体験コーナー・石鹸にデコ	11月6日	42
メモホルダーをつくろう	6月4日	17	そば打ち体験①	11月26日	23
回転式小物入れをつくろう	6月25日	24	そば打ち体験②	12月17日	20
インドネシア料理にチャレンジ	7月16日	10	クリスマスケーキをつくろう	12月23日	33
太鼓教室①	7月27日	17	ガラスを削ってオリジナルコップをつくろう①	1月28日	13
太鼓教室②	7月28日	16	ガラスを削ってオリジナルコップをつくろう②	2月4日	12
バスツアー(川越電力館と四日市博物館)	8月3日	37	おたのしみチョコレート	2月11日	23
ビーズで作るタオルハンガー	8月20日	11	紙ひこうきを飛ばそう	2月25日	21
夏野菜を使ったおたのしみ料理とデザート	8月26日	14	キャラ弁	3月3日	
ドキュメントファイルをつくろう	9月10日	11			
エコバックをつくろう	9月24日	13			
			計	24回	470

4 教職員及び幼児児童生徒の保健・安全について

事業内容	事業の実施状況
適切に教職員や幼児児童生徒の健康診断を行うこと	<p>教職員の健康診断について 8月5日実施。24人受診</p> <p>教職員の健康診断アンケートについて 6月に実施し、教育委員会として、教職員の健康診断の結果把握等のあり方についての現状を把握した。</p> <p>アンケート後、以下の2点を昨年度同様に実施することを確認した。</p> <p>① 健康診断が終了した教職員は、校長を通じて教育委員会に、「健康診断結果報告票」を提出すること。</p> <p>② 「要精密検査」の判定を受けた教職員へは、校長から、健康状況等について指導すること。</p> <p>今年度から、健康診断の結果を基にして判定区分をつけるよう、医療機関に委託し、結果を3月に受診者に通知した。</p> <p>幼児児童生徒の健康診断について 4月～6月にかけて、以下の検診を実施。</p> <p>身体測定 視力・聴力検査、歯科検診、耳鼻科検診 心臓検診、内科検診、尿検査、眼科検診</p> <p>平成23年度から、心臓検診の内容を6誘導から12誘導に変更して、より精密な検診ができるようにした。また、心臓検診と同時に行っていた血圧検査は、近隣市町の状況から除くこととした。</p>
適切な時期に、就学児健康診断を実施すること	<p>10月20日実施。 受診者・・・53名</p>
安全衛生管理規定に基づき、教職員の時間外勤務の実態を把握し、適切な指導をすること	<p>小中学校から、各教職員の時間外労働時間について報告を求め、その都度、時間外労働の現状について確認し、改善策等について話し合った。</p>

評価結果と成果・課題及び今後の方向性 →

【 3 】

幼児児童生徒や教職員の健康診断等は適正に実施できた。教職員の健康診断結果を提出する体制は整えているが、健康指導という点では十分でないこと、また、教職員時間外労働については、数十時間という教職員もいることから評価は3とした。

5 学校その他教育機関の施設整備・環境衛生について

事業内容	事業の実施状況
学校的环境衛生検査について、適切に計画を立てて実施すること	飲料水、プール水水質検査、各教室等の照度検査、飲料水貯水槽清掃、防鳩メンテナンス、電気保安業務点検等を実施。
学校その他教育機関の修繕等について、その都度迅速に対応すること	学校、利用者等から報告を受けた場合、迅速な対応を心がけている。 主な修繕等の内容 幼稚園の遊具 小学校体育館通路扉の開閉と鍵 小学校のプールポンプ室のバルブ 小学校運動場スプリンクラー グルービーパークの車止め支柱（駐車場付近）

評価結果と成果・課題及び今後の方向性→

【 3 】

今年度も施設整備や環境衛生については必要な検査等は確実に実施し、指摘された箇所についても、予算の範囲内で速やかに対応してきた。

しかしながら、軽微な修繕については、各園や学校で対応するようにしているが、十分でないことがあったため、評価は3とした。

また、学校環境衛生基準に基づく空気定期検査（一酸化炭素、二酸化炭素の検査）をすることが必要となっており、北勢管内で、平成24年度から統一して行うことを確認している。

6 学校給食について

事業内容	事業の実施状況
安全な学校給食を提供すること	季節や産地を考慮し、できる限り安全な食材を提供に努めていきたい。 (地物一番、地産地消) 献立検討会を年間10回開催。 4月26日、5月31日、6月30日、 9月29日、10月27日、11月28日、 12月21日、1月27日、2月27日、 3月23日
給食費未納者を削減すること	毎月1回、督促状、催促状を送付し、訪問するようにしてきた。
入札制度の活用により、安全な食材を低価格で提供すること	「一般物資」「肉」「野菜」「地域産物」に分けて入札を行っている。
給食運営委員会を開催し、給食のあり方の改善を図ること	年間3回開催。 6月6日、10月6日、2月20日 平成24年度からは、一律500円の給食費の値下げを行うことを決定した。

評価結果と成果・課題及び今後の方向性→

【 3 】

東日本大震災による原発事故で、給食に提供される食材について、安全であることの文書を作成し、各園・学校から保護者に周知した。また、平成23年度から、毎年1回、残留農薬検査(1検体)と腸管出血性大腸菌(O-157 3検体)を実施することとし、3月6日の献立材料を使用して検査を実施。検査結果は、いずれも陰性であった。さらに、保護者負担軽減として、一律500円の値下げを協議し決定されたことは成果である。

しかしながら、給食センター調理施設の老朽化や、保健所から指摘を受けているドライ方式の導入等、改善点があり今後に向けた検討が必要であることから評価は3とした。

